

事例7 社会の中に生きる美術の働きについて考え、創造的に表現する力の育成をねらった事例

○学年 第2学年

○主な領域 デザインに表す活動

○事例のポイント

- ①生活の中にあるパッケージを造形的な見方・考え方を働かせて捉えなおすことで、社会に生きる美術の働きについて実感を伴って学ぶことができるようにする。
- ②伝えたい内容や目的に合わせて材料や用具を選び、表現の意図に応じて表現方法を追求することができるようにする。
- ③鑑賞活動を題材計画の中に効果的に設定することによって、対話を通してより多くの人の視点を取り入れながら主体的に学ぶことができるようにする。

ICTを活用した主な学習場面

- ・主題を基にアイデアを練る場面
- ・試行錯誤を行いながら制作を行う場面

ICT活用の利点

- ①インターネットを使用した資料収集やアンケートフォームなどを用いた調査など、手軽にアイデアを練るための情報を得ることができる。
- ②自分の意図に応じて配色や画面構成を練る活動が行いやすくなり、短時間でより多くのパターンを**試行**しながら、表現活動を行うことができる。

1 題材名 「ひと口で〇〇！新駄菓子開発会議！」

【第2学年】A表現(1)イ(4)、(2)ア(7)(4) B鑑賞(1)ア(4) [共通事項] (1)ア、イ

2 題材について

- (1)生徒の実態(略)
- (2)本題材を指導するに当たって(略)

3 目標及び評価規準(※[共通事項](1)ア、イはア、イで示す。)

(1) 題材の目標

- ・形や色彩、材料などの性質及びそれらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、全体のイメージでとらえることを理解する。
- ・描画材料や紙などの材料や用具の特性を生かし、意図に応じて表現方法を創意工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表す。〈知識及び技能〉
- ・より多くの人々に自分が考えた商品の魅力やよさを伝えるという目的や条件などを基に自分の生活や人々の願いから主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどの調和を総合的に考え、表現の構想を練る。
- ・伝える目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の伝えたいイメージや魅力や表現の意図について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・美術の創造活動の喜びを味わい、主題を生み出し、形や色彩などの性質や感情にもたらす効果、機能と美しさとの調和などを総合的に考えて構想を練り、見通しをもって表す表現の学習活動に主体的に取り組もうとする。
- ・美術の創造活動の喜びを味わい、伝達のデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の伝えたいイメージや魅力や表現の意図などについて考えて見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとする。〈学びに向かう力、人間性等〉

(2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知形や色彩などの性質及びそれらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに、全体のイメージでとらえることを理解している。</p> <p>技描画材料や紙などの材料や用具の特性を生かし、意図に応じて表現方法を創意工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表している。</p>	<p>発より多くの人々に自分が考えた商品の魅力やよさを伝えるという目的や条件などを基に自分の生活や人々の願いから主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどの調和を総合的に考え、表現の構想を練っている。</p> <p>鑑伝える目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の伝えたいイメージや魅力や表現の意図について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>態表美術の創造活動の喜びを味わい、主題を生み出し、形や色彩などの性質や感情にもたらす効果を、機能と美しさとの調和などを総合的に考えて構想を練り、見通しをもって表す表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑美術の創造活動の喜びを味わい、<u>伝達のデザインの調和のとれた洗練された美しさなど</u>を感じ取り、<u>作者の伝えたいイメージや魅力や表現の意図</u>などについて考えて見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。</p>

※それぞれの評価規準は「内容のまとまりごとの評価規準(例)」を、そのまま使用したり、具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりするなどしている。(下線部は変更箇所)

4 指導と評価の計画(全10時間扱い)

○：指導に生かす評価、◎：全員の学習状況を記録に残す評価

時間	学習のねらい・学習活動	評価の観点、評価方法等					備考	
		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
		知	技	発	鑑	態		
1	<ul style="list-style-type: none"> 学習のねらいを理解する。 市販の商品のパッケージを鑑賞し、イメージを伝えるための工夫や役割について考える。 	◎				○	「知識・技能(知識)」は造形的な視点でパッケージの機能やよさを捉えられているかという視点で評価し記録に残す。	
2	<ul style="list-style-type: none"> 図書館やICT端末を使用した統計資料などの調査や学年の生徒や保護者にアンケートを行い、個人の思いだけではなく社会のニーズなどの視点も踏まえて主題設定を行う。 主題を基に商品を考え、伝えたいイメージや商品の魅力を基にアイデアを練る。 	○		◎	観察対話記述 スケッチ		「思考・判断・表現(発想や構想)」はより多くの人々に自分が考えた商品の魅力やよさを伝えるという目的や条件などを基に自分の生活や人々の願いから主題を生み出しているかという視点で評価し記録に残す。	
3	<ul style="list-style-type: none"> 伝えたい内容を基に情報の序列をつけ、形や色彩の効果を考えながら、紙やICT端末を使ってスケッチに表す。 形や色彩を考え、パッケージに使用する文字のアイデアスケッチをする。 			◎	観察対話 スケッチ 作品	◎	観察対話 作品 記述	「思考・判断・表現(発想や構想)」伝達の効果と美しさなどの調和を総合的に考え、表現の構想を練っているかどうかという視点で評価し記録に残す。

事例のポイント①

4	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフトを使って、パッケージを制作する。 ・形や色彩の効果や感情にもたらす効果について理解し、自分の意図に合わせてより効果的な配色や構成を練りながら進める。 ・自分の意図に応じて水彩の表現や色鉛筆などの表現も試しながら、よりよいパッケージの表現を試行錯誤しながら制作を行う。 	事例のポイント②					「知識・技能（知識）」は、形や色彩の効果、イラストや写真の見せ方などを基に全体のイメージで捉えることを理解しているかどうかを見取り、指導に生かす。 「思考・判断・表現（発想や構想）」伝達の効果と美しさなどの調和を総合的に考え、表現の構想を練っているかどうかを見取り、指導に生かす。 「知識・技能（技能）」は、描画材料や紙などの材料や用具の特性を生かし、意図に応じて表現方法を創意工夫しているかという視点で評価し記録に残す。 「思考・判断・表現（発想や構想）」は他者の視点を踏まえて色彩の組合せや文字のデザインなどをさらに吟味しているかどうかを見取り、指導に生かす。 「知識・技能（技能）」は、描画材料や紙などの材料や用具の特性を生かし、意図に応じて表現方法を創意工夫しているかという視点で評価し記録に残す。
		○	○				
		○	○	○			
5 【本時】		○	○	○			
6			◎ 対話 作品	◎ 対話 作品			
7	<ul style="list-style-type: none"> ・班の中で互いの作品を見合い、造形的な視点を基に分かりやすく魅力的なパッケージになっているかよいところや改善点をあげて意見交換をする。 	事例のポイント③					
		○		○			
8	<ul style="list-style-type: none"> ・中間発表会で得た他者からの意見を取り入れたり吟味したりしながら、より多くの人に伝わるパッケージにするために試行錯誤するなどして、自分の作品を見つめ直しながら制作を進める。 		○				
9			◎ 対話 作品				
10	<ul style="list-style-type: none"> ・パッケージのプレゼンを行う。 ・クラスの友達の作品を鑑賞し、表現方法の工夫や形や色彩やその組合せの美しさと伝えるデザイン機能と調和に注目し、伝達の効果を味わう。 	事例のポイント①					
		○			◎ 対話 作品 記述		
					◎ 観察 対話 作品 記述		
					◎ 作品 作品カード 記述		

5 本時の学習（本時 5 / 10時）

- (1) 目標
- ・ 描画材料や紙などの材料や用具の特性を生かし、意図に応じて表現方法を創意工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表す。〈知識及び技能〉
 - ・ より多くの人々に自分が考えた商品の魅力やよさを伝えるという目的や条件などを基に自分の生活や人々の願いから主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練る。 〈思考力、判断力、表現力等〉

(2) 準備

○教師：PC、ワークシート、プロジェクター、電子黒板、色鉛筆、水彩絵の具、カラーペン、色画用紙、折り紙、のり、両面テープ、はさみ、カッター、カッターマット、スキャナー、プリンター

○生徒：ICT端末、筆記用具、のり

(3) 展開

過程時間	学習活動 予想される生徒の具体的な姿（「」）	指導の工夫 （〔共通事項〕に係る内容 ア____、イ_____）	評価と手立て 【観点】：評価規準（評価方法） ◎：十分満足できる状況 ◆：B評価に達しない生徒への手立て
導入 5分	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">提案「形や色彩の効果を考えて、魅力的なパッケージの構成を練ろう！」</p> <p>1 本時のねらいと活動内容を知る。 「商品のよさが伝わりやすく魅力的なよりよいパッケージするために、色の組合せやフォントの形、配置などを工夫してみよう」</p>	<p>○本時の活動に見通しをもたせるために、振り返りや前回の活動も含めて活動内容について説明する。</p> <p>○必要な情報をわかりやすく魅力的に伝えるというパッケージの機能を意識してアイデアを練ることができるように、パッケージをデザインする上で、販売対象を設定することやその対象に合わせて配色やフォント・イラストなどを選ぶことが重要であることを伝える。</p>	<p>【技】描画材料や紙などの材料や用具の特性を生かし、意図に応じて表現方法を創意工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表している。（対話・観察・作品）</p>
展開 40分	<p>2 プレゼンテーションソフトや紙や描画材料を使って制作を行う。 ・パッケージ全体の配色や配置を試行錯誤しながら制作を進める。</p> <p>「明るさをかえるだけでも印象が変わる。この色の方がパッケージの文字が見やすい。この色が伝えたいイメージにより合っている。」 「自分の販売ターゲットは社会人だから、落ち着いた雰囲気するために全体的に暗めの色を使おう。」</p>	<p>○自分の意図に合わせてより豊かな表現を追求することができるように、デジタル表現だけではなく、<u>伝えたい内容や意図に合わせて、描画材料がもつ特性や伝わるイメージなどを生かすことができることも伝える。</u></p> <p>○描画材料などを用いて紙などに表現した生徒には、必要に応じて作品のスキャナーでの取り込み方を教える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px;">ICT活用の利点②</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px;">事例のポイント②</div> <p>○より豊かなパッケージの追求ができるように、<u>イラストやテキストなどを使用したスライドを複製し、大きさや配置を変えたり背景色だけを変えたりすることができることを示し、配色や構成を吟味してよりよいパッケージの構成を練るように伝える。</u></p>	<p>◎自分の伝えたい内容に合わせて、材料や用具の特徴を生かして、工夫して表している。</p> <p>◆材料を選んだ理由を尋ねたり、特徴やよさを確認しながら何が自分の伝えたい内容に生きていくのか一緒に考えたりするなどの助言を行う。（作品、活動の様子）</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;">編 P100 指導計画の作成の留意事項(2)(6)</div>

<p>「中央に大きめの写真やイラストを配置したほうが商品のイメージが伝わりやすいかな」</p> <p>・アイデアを練りながら自分だけの考えに偏るのではなく「より多くの人に伝える」という視点を持ち、資料やクラスの仲間に意見を求めながら制作を進める。</p> <p>「自分と他の人が感じるイメージに少し違いがあるかもしれない。他の人がどう感じるかもっと聞いてみよう。」</p> <p>「高齢者の方には〇〇が人気だから、商品のアイデアに取り入れた方がいいかな」</p> <p>3 片付けを行う。</p> <p>・描画材料を使った生徒は片付けを行う。</p> <p>・変更したファイルを上書き保存し、プレゼンテーションソフト等を終了する。</p>	<p>ICT活用の利点①</p> <p>○色の微妙な違いを感じ取ることが苦手な生徒に配慮し、カラーコードが調べられるウェブサイトのURLをコミュニケーションツール上で共有する。</p> <p>編 P100 指導計画の作成の留意事項(1)(8)</p> <p>○より多くの人に分かりやすくイメージが伝わりやすいパッケージのアイデアを練ることができるように、ICT端末を用いてインターネット上で統計資料を検索したり、活動班やクラスの仲間と意見交換したりしながら、パッケージの構成を考えさせる。</p> <p>○描画材料や用具の片付けを見取り、特に刃物を使用している生徒がいた場合は安全管理のためにも手渡しで受け取るようにする。</p> <p>○本時に進めたデータが保存されていることを確認してからソフトを終了するように伝える。</p>	<p>【態表】美術の創造活動の喜びを味わい、主題を生み出し、形や色彩などの性質や感情にもたらず効果、機能と美しさとの調和などを総合的に考えて構想を練り、意図に応じて創意工夫し見通しをもって表す表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>◎自分の伝えたい内容に応じて描画材料などを選択し、試行錯誤を繰り返しながら制作に取り組んでいる。</p> <p>◆材料や用具のよさや伝わるイメージなどについて対話を通して確認したり、他の生徒の取組みを紹介したりするなど、表現の工夫などについての興味や関心を高めるような指導を行う。 (活動の様子、作品)</p>
<p>整理 5 分</p>	<p>4 本時の活動を振り返り、次時に見通しをもつ。</p> <p>・今日の学習を通して、自分が考えたことや気付いたことを、ワークシートや振り返りに記入する。</p>	<p>○今日の学習活動についてまとめ、生徒が本日のねらいにせまることができるようにする。</p> <p>○本時の活動について振り返り、ワークシートに考えをまとめることで、次時への見通しをもつことができるようにする。</p>

知=「知識・技能」の知識に関する評価規準、技=「知識・技能」の技能に関する評価規準、発=「思考・判断・表現」の発想や構想に関する評価規準、鑑=「思考・判断・表現」の鑑賞に関する評価規準、態=「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を表す。

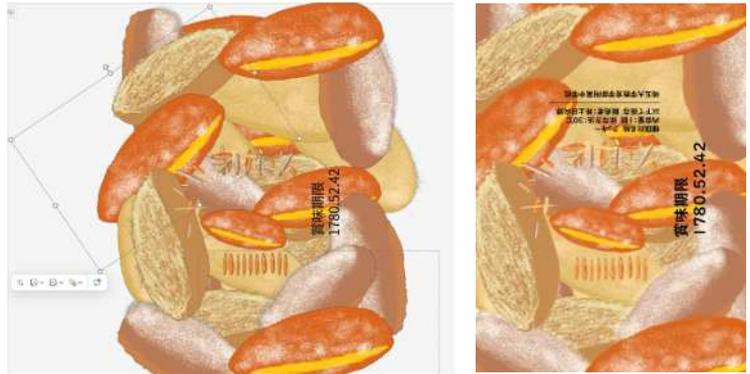
※【記録に残す評価】は□、【指導に生かす評価】は○で示している。

6 補足

(1) 生徒作品から見る ICT 端末による学習の利点

①コピー及び貼り付け、サイズ変更の機能を生かした例

イラストソフトで描いたイラストを複製し、サイズを変えたり回転させたりして構成し、商品名や背景を表現している。複製が自由で短時間で言うことを活用している。



②写真を使った例

自分で撮影した写真（バター、クッキー）を加工し、配置や角度を考えて配置したり、彩度・明度等を加工したりして使用している。



③一部を変更してよりよい表現を吟味している例

メインとなるイラストやその配置は変えずに、背景のみを変更して自分の伝えたいイメージに合っているか、分かりやすく見やすいデザインになっているかを確認し、短時間で複数のアイデアを出しながら、よりよいパッケージの表現を吟味している。また、商品名のフォントや配置も検討している。



④自分の意図に合わせて、描画材料や ICT 端末による表現の利点を

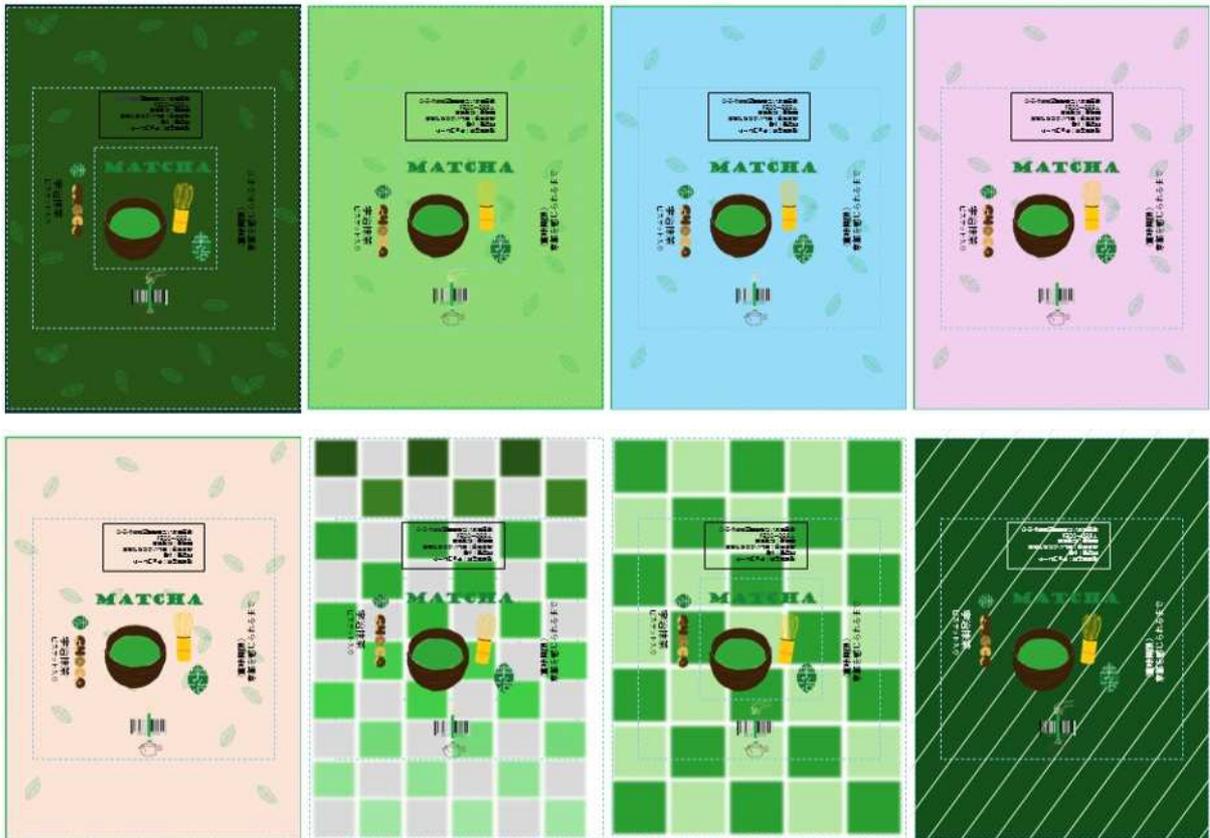
生かしながら表現方法を選択している例

紙に鉛筆でイラストを描いたものをスキャナーで取り込んだ後、彩色は ICT 端末を用いて行っている。線画を鉛筆で描くことにより、背景と印象を変えて同化しすぎないようにしている。また、彩色を ICT 端末で行うことにより、色味や塗り方の追求をすることができる。



⑤背景の色を吟味し、よりよい表現を吟味している例

背景の色を変えて色彩がもたらす視覚的な効果や感じ取ることがイメージを確認している。また、模様などのパターンを取り入れることを試しながら、よりよいパッケージの表現を吟味している。レイヤーを分けて制作することにより、背景部分などの一部分のみの変更がしやすくなっている。



(2)実際の作品

